

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol psychoses and all-cause mortality in Belarus. ベラルーシにおけるアルコール性精神病と全死亡について	
執筆者	
Razvodovsky YE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Adicciones 2008; 20: 395-406.	
キーワード	
アルコール性精神病、全死亡、ARIMA 時系列分析、ベラルーシ	
要 旨	
<p><b>目的：</b> 中央及び東アジアは世界の中でも有数のアルコール関連の問題が大きな地域である。ベラルーシの飲酒量は世界でも最高レベルであり、年間の一人当たりの純アルコール消費量は 14 リットルである。ベラルーシでは、ソビエト連邦の解体にともなう社会的、経済的、政治的混乱と同時に、死亡率が非常に上昇している。先のソビエト連邦において、アルコールは疾病に大きな影響を及ぼしていたと考えられるが、ベラルーシの死亡率におけるアルコールの影響の強さはほとんど系統的に検討されてこなかった為、今回統計上のデータを用いて検討を行う。</p> <p><b>方法：</b> 1970 年から 2005 年の総死亡率と、飲酒量の代わりとしてアルコール性精神病的発症率の傾向について ARIMA 時系列分析を用いて解析し、この 2 つの指標の関連について検討を行った。</p> <p><b>結果：</b> 統計上の総死亡率とアルコール性精神病的発症率は密接な関連があった。</p> <p><b>結論：</b> この結果は以前検討したアルコールと死亡の関係について報告した結果と非常によく似ていた。またベラルーシにおいてアルコールが死亡率の上昇と深く関係しているという仮説を支持する結果であった。従ってアルコールはベラルーシの公衆衛生上の施策において非常に重要な最優先課題ととらえられるべきである。</p>	